

目 次

はじめに v

序説 言語学, 英語学, 英語史

第1章 従来の言語学, 英語学, 英語史…………… 2

第2章 言語学, 英語学, 英語史の再構築…………… 7

第I部 マルティネ (A. Martinet) の言語学原理

第3章 マルティネの言語学原理…………… 14

1. プラーグ学派, 特にマルティネの言語学原理 14
2. 調音器官の不整合な構造 16
3. 人間の言語の独自性 18
4. 発話機能の優位性 21
5. 発話作用の生理的側面と心理的側面 23
6. 言語変化における生理的側面と心理的側面との関係 25
7. 言語変化にみられる心理作用 26
8. 発音変化にみられる心理的作用の具体例: 近代英語の [k, g] の口蓋化 27
9. 「大母音推移」にみられる心理作用 29

10. 「母音変異 (i-mutation)」にみられる心理作用 33
11. 「母音交替 (アブラウト: Ablaut)」に見られる心理作用 37
12. 発音変化における心理作用の結論 40
13. マルティネの言語史の原理: むすび 41

第Ⅱ部 英語史の詩学と記号論: 入門編

—音韻, 文法, 意味三位一体の言語学—

第4章 民間語源 (folk-etymology)	48
1. 「民間語源説」の再検討	48
2. 国内での民間語源説の扱い	52
3. 民間語源説の誕生	54
4. 民間語源説の歴史	55
5. 誤解の由来	56
第5章 英語の人称代名詞の変遷	62
1. 英語の人称代名詞の歴史	62
2. 二人称単数の thou, thy, thee の変遷	63
3. 二人称複数主格の ye と you の交替	64
4. 三人称単数女性形の she の起源	67
5. 中性の単数 it の所有格 its の誕生	68
6. 三人称複数形すべての交替	69
7. 結論	69
第6章 シェイクスピアにみる統語法	72
1. シェイクスピアの who と which	72

2. ポープ (A. Pope) によるシェイクスピアの英語 74
3. 結論 76

第7章 「窓」から見える異文化…………… 77

第Ⅲ部 英語史の詩学と記号論：実践編

第8章 auburn：シェイクスピアの色彩語…………… 86

1. はじめに 86
 - 1.1. シェイクスピアの語彙・意味変化研究の難しさ 86
 - 1.2. 伝統文法の語彙史・意味変化研究 88
 - 1.3. 語彙史・意味変化と発音・形態との相関関係 91
2. シェイクスピアにおける auburn 94
 - 2.1. シェイクスピアの語彙の問題点 94
 - 2.2. シュミットの *Shakespeare Lexicon* の矛盾点 96
 - 2.3. 『英語語源辞典』と *OED*² の説明 98
 - 2.4. リチャードソン (C. Richardson) の説明 102
 - 2.5. シェイクスピアの auburn のまとめ：「白色 (の)」から
「とび色 (の)」へ 104
3. エリザベス朝に流行した「とび色 (auburn)」の髪 106
 - 3.1. 言語外的要因 106
 - 3.2. auburn の意味・形態の変遷：マッケイの説明 109
4. auburn の問題点 112
 - 4.1. auburn の形態変化の要約 112
 - 4.2. *OED*² に記載されているの auburn のすべての引用例
115
5. 結論 120

第9章 green-eyed はなぜ「嫉妬」するのか

—シェイクスピアの語形成法解明への試み—…………… 125

はじめに 125

1. 「嫉妬」を意味する green-eyed 126
 - 1.1. シェイクスピアの新造語 green-eyed 126
 - 1.2. 辞書にみられる green-eyed 128
2. green-eyed と「猫」—要因その1— 133
 - 2.1. 「猫」と「嫉妬」 133
 - 2.2. 現代英語における green-eyed 141
 - 2.3. 方言における green-eyed 145
3. green と同義語反復構文 (repetitive word pairs)
—要因その2— 147
 - 3.1. green の意味変化 147
 - 3.2. シュミットと green の同義語反復構文 151
 - 3.3. OED²3.a の記述と green の同義語反復構文 152
 - 3.4. シェイクスピアの green の同義語反復構文の実例 156
 - 3.5. まとめ 159
4. grey-eyed, whall eyes, wall eyes から green-eyed へ
—要因その3— 160
 - 4.1. grey-eyed 161
 - 4.2. wall-eyed と whally-eyed
—ネアズ (R. Nares) の記述 165
 - 4.3. whally-eyes から green-eyed へ
—スキート (W. W. Skeat) の記述 170
5. 結論—シェイクスピアにみる究極の語形成法 175

第10章 詩学と記号論

—サピア『言語』の第10章と第11章—…………… 185

1. サピアの『言語』はなぜむずかしいのか 185
2. 詩学と記号論 187
3. サピア『言語』の構成 188

あとがき	191
参考文献	197
索引	203
初出一覧	207